

ペルー北部の豪雨被災地における女性職人の経済的エンパワーメント（ピウラ県の事例） —女性職人ネットワーク「Weaving Hopes（希望を編む）」—

カルメン・レデズマ（ペルー）

2016年12月から2017年3月にかけて、ペルー北部は海岸性エルニーニョ現象による豪雨災害に襲われました。ピウラをはじめとする複数の県で河川が氾濫し、家屋や農地が洪水の被害に遭ったほか、道路が寸断され基本的なサービスも受けられない状況に陥り、何千世帯もの人々が被災しました。この事態を受けて、国家緊急事態宣言が発令されました。ピウラ県では、2017年3月31日時点で141,860人が被災して家屋を失いました。ピウラ県のカタカオスとクラ・モリ地区では、27,981人の被災者を収容するため34カ所の避難所に計1,985張のテントが設置されました。

女性社会的弱者省(MIMP)の主導のもと、異なる避難所に収容されていた家族や女性、少年少女、青年の配置が改められ、女性を中心とする267世帯がピウラ県カタカオス地区サン・パブロの避難所に収容されました。また同省は、女性が暴行などの被害を受けることのないよう、弁護士や心理学者などの相談も受けられる暴力防止支援のユニットが設置されました。さらに、ゲームなどの遊びを通じて子どもたちを元気づけ、この自然災害から早期に立ち直れるようレジリエンスを高めるため、「レッツ・プレイ」と銘打ったユニットも整備しました。

このような中、2016年から2017年の半ばにかけて、ピウラ県における暴力事件の発生率が高まり、その内訳は、精神的暴力が55%、身体的暴力が36%、性的暴力が9%、加えて女性殺害が3件、女性殺害未遂が9件でした。この背景には、避難生活によって女性や子どもが通常と異なる形で暴力にさらされていたことが挙げられます。2016年だけでも、ピウラ県では2,757件の暴力事件が報告されています。

一方で、ピウラ県では、経済活動を行っている女性の割合は40%（37万人）ですが、その82.5%がインフォーマルセクターの労働者です。

この現状を受け、避難生活を送る女性たちのために、MIMPは家庭内・性的暴力防止国家プログラムと並行して、女性が収入を得て経済的自立を果たすことを目指してインターベンション（介入）戦略を打ち立てました。その手段として選んだのは、ピウラ県の伝統工芸として名高い、トキージャヤシの繊維で作る帽子（いわゆるパナマ帽）などを編む技術を女性に身に付けさせることです。この土地の特産品であるトキージャヤ

タスクフォース



女性職人ネットワーク「Weaving Hopes（希望を編む）」のワークショップ・テントの外観。販売フェア（2017年12月～2018年1月開催）は多くの客で賑わった



ワークショップの内観。ここで女性職人が制作活動を行う



窓辺の展示・販売エリア



授乳コーナー。仕事の合間に授乳できるようベビーベッドが備えられている



幼児のためのプレイコーナー

活動中の女性起業家たち



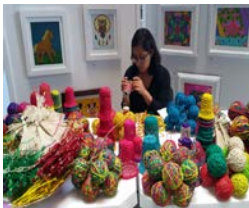
トキージャ帽を編む年配の女性職人

女性職人のワークショップ



女性緊急センターのテント。サン・パブロ避難所における暴行などのケースに対応

トキージャヤシの
繊維で作った女性
職人による手編み
製品



2017年のクリスマス向けに、フェアや他の会場で女性職人による手編み製品を販売

シを原料として使用するため、他の地域よりも有利な状況にあるからです。カタカオス地区サン・パブロの避難所の267名の女性のうち、2017年後半に行われたMIMPによるインターベンションの第一段階では、市場参入を目指して100人余りの女性がトキージャを用いた画期的な新製品のデザインに関する講習を受けました。また、この女性たちによる起業の試みを支援するため、ピウラ県カタカオス地区の女性職人ネットワーク「Weaving Hopes（希望を編む）」が作られました。これは彼女たちが互いに交流を深めることで、事業が将来にわたって持続可能となり、経済的自立を果たすことを目指すものです。製品の生産、リーダーシップ、商業活動などの面におけるキャパシティ・ビルディング（能力向上）を行うことで、女性たちの経済的な自主性を高めることを目的としたこの取り組みには、ジェンダーや文化的交流といった視点からのアプローチも取り入れられています。

彼女たちのエンパワーメントや経済的自立を促すため、MIMPは技術支援を行うほか、民間セクターや他の国家機関、BELCORPなどの地元企業との連携も図っています。これに加え、色彩やファッションのトレンドに見識を持つ専門家とも連携し、製品やサービスの競争力を高め、彼女たちがこの先も長きにわたって魅力的な商品を市場に供給できるよう働きかけています。

サン・パブロの避難所で生活する女性職人たちには、製品をデザインするためのスペースがありませんでした。そこで、ワークショップという形で新たなユニットが設置されました。このワークショップの面積は10×17m、高さは4mで、講習や商品の制作、展示、販売といった用途に利用できます。このワークショップは、製品を編み上げるエリア、マーケティングのためのエリア、ベビーベッドを備えた授乳コーナー、幼児のためのプレイコーナーといった4つのエリアから構成されています。さらに、文化的交流という面でのアプローチとしては、彼女たちが円卓を囲んでクッションに座り、製品見本を真ん中に置いて話をしながら仕事ができるよう配慮されています。

現在このネットワークには約200名の女性が参加しており、その製品をショッピングセンターで販売しているほか、企業からの発注も受けています。MIMPはインターベンションの第二段階として国際市場参入の計画を立てており、現在その計画は実行に移されつつあります。この戦略はまさに、女性を暴力と貧困から救済するものです。その意義は、彼女たちのこの言葉に集約されていると言えるでしょう。「いま私たちは自由を感じ、発展への希望を託して製品を編んでいます。暴力から解放され、経済的なエンパワーメントを果たすために。」

改善前

ピウラ県カタカオス地区サン・パブロ避難所内の女性職人用テント（改善前）



通常のテントでは、100名の女性を対象にトキージャ製品の編み方の講習を行うことはできなかった



女性職人のワークショップが整備される前は、小学校の教室でトキージャ製品の講習会が開かれた



ネットワークのリーダーは若い母親が務めている